



2021年5月25日 キリスト教センター通信 リレーメッセージ 第36号

「チャペルと教会」

理事長 八代 智

本学の門を入ると右手に1号館があり、そこからまるで神社の参道のように1本の敷石道がまっすぐに伸びています。そしてその行き着く所に、十字架のタワーがそびえ立つチャペルが建っています。

よく学生からチャペルと教会の違いを尋ねられるのですが、簡単に言えば信者さんがいて日曜日に礼拝が行われている街中の教会に対して、信者さんはいませんがキリスト教系の学校や病院等の施設内に建てられた礼拝堂のことをチャペルと言って区別しています。

そして教会やその母体となる教区から、チャペルに派遣された牧師さんのことをとくにチャプレンと言います。

今はコロナ禍でお昼の礼拝もお休みですが、チャペルはいつでも開いておりますので、独りで静かな時間を持ちたい時や自分自身を静かに振り返ってみたい時など、遠慮なくチャペルにお入りください。

またチャプレンがいつも待機していますので、相談事等あれば気軽にチャプレンにお声がけください。

本学は学生の皆さんのスピリチュアルな面でも、大いにサポートしています。コロナ禍で楽しい学生生活をなかなか送ることができないぶん、神の愛に包まれた時間と空間を、大いに活用してくださいね♪

一口メモ 「サッカーファンなら知ってるこれも聖歌！」

みなさんのなかには、教会の音楽としてクリスマスキャロルやゴスペルを連想する人がいるかも知れません。本学の母体である聖公会という教会では、礼拝の際に神を賛美する歌を「聖歌」といいます。聖歌は全てが教会のオリジナル楽曲ではなく、聖歌481番（この世の波風さわぎ）はアイルランド民謡、聖歌540番（やさしき息吹の）はアメイジンググレイス…などなど、出典はさまざまです。

聖歌390番（栄えに満ちたる）はハイドンの「皇帝」でドイツ連邦共和国の国歌でもあります。ブンデスリーガのファンなら聞いたことがあるのでは…。



- 新型コロナウイルスの被害を覚えるお祈り -

※ みなさんもお時間のあるときにお祈り下さい

神戸国際大学の学生のための祈り

いつくしみ深い神よ、新型コロナウイルスの感染拡大により、困難な日々、孤独な状況、不安の中にあるすべての神戸国際大学の学生のみなさんのために祈ります。

どうか、彼ら彼女ら一人ひとりの心を支え、お守りください。そして私たちに、あなたの知恵と力が与えられ、今できることを考え、神さまの、み心にかなった正しい行動を心がけることができますように。そして、共に心を合わせて、新型コロナウイルスの一日も早い終息を祈り、求め続けることができますようにお導きください。このお祈りを、主イエスさまの、み名によってお捧げいたします。 アーメン

病に苦しむ人のための祈り

慈悲の父、慰めのもとである神よ、現在、新型コロナウイルスに感染し、痛みや苦しみ、不安や悲しみの中にある人のために献げる祈りをお聞きください。どうか病で困難や不安の中にある人を憐れみ、み恵みによってその体と心を強め、病を癒やしてください。また、医師と看護する者とを助け導き、その働きを支えてください。そして、何もできずに不安と悲しみの中で苦しむご家族やご友人、また、私たちの心も神さま、あなたが愛によってお救いください。

主イエス・キリストによってお願いいたします。 アーメン

離れている大切な人を覚える祈り

愛なる神さま、あなたは、み手を伸べていつも私たちをお守りくださいます。どうか、遠く離れて暮らす家族や友人を様々な困難な状況からお守りください。そしてこの不安定な世界において、必要な糧が与えられますように。心と体が守られ、健やかに日々を過ごすことができますように、どうかあなたがお支えください。また、不安の中で医療に従事する人々のために祈ります。どうか一人ひとりの働きが祝福され、感染者の回復を助け、支える力をお与えください。そして彼らが感染から守られ、新型コロナウイルスの終息に向かうことができますように。

この小さなお祈りをイエスさまによってお願いいたします。 アーメン